

十三代目市川團十郎白猿襲名披露

八代目市川新之助初舞台記念

市川團十郎・ぼたん・新之助 成田屋親子

「伝承への道」



一、座談会

市川團十郎
市川ぼたん
市川新之助
他

二、『子守』

清元連中 市川ぼたん

三、『鳶奴』

長唄雛子連中 市川新之助

四、『男伊達花廓』

おとしこ だて はなのよしわら
長唄雛子連中 市川團十郎
市川ぼたん



市川新之助



市川ぼたん

2023年3月30日(木) ①開演 14時 (開場 13時 30分)
②開演 17時 (開場 16時 30分)

東京国際フォーラムホールC

【アクセス】JR有楽町駅より徒歩1分 JR東京駅より徒歩5分 (京葉線東京駅とBIF地下コンコースにて連絡)

2023年3月31日(金) 開演 14時 (開場 13時 30分)

神奈川県民ホール

【アクセス】みなとみらい線日本大通り駅より徒歩約6分 JR根岸線・市営地下鉄園内駅より徒歩約15分

料金

一等席 11,000円 二等席 10,000円

【税込・全席指定】 ※未就学児観劇不可

プレイガイド 2023年1月15日(日) 一般発売開始

- Zen-A (ゼンエイ) TEL:03-3538-2300 (平日 11:00-19:00) <http://zen-a.co.jp/>
- チケットぴあ <https://pia.jp/t/> 【Pコード 東京:516-671 神奈川:516-672】
- ローソンチケット <https://l-tike.com/> 【Lコード 東京:34866 神奈川:34938】
- イープラス <https://eplus.jp/>
- CNプレイガイド TEL:0570-08-9999 <https://www.cnplayguide.com/>
- チケットWeb松竹 <https://www.1.ticket-web-shochiku.com/t/>
- チケットかながわ [神奈川公演のみ] TEL:0570-015-415(10:00~18:00) <https://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>
- tvk チケットカウンター [神奈川公演のみ] <https://www.tvk-ticket.jp/>

十三代目市川團十郎白猿襲名披露 八代目市川新之助初舞台記念

市川團十郎・ぼたん・新之助 成田屋親子 「伝承への道」

十三代目市川團十郎白猿を襲名させていただくにあたり、「伝統の継承、未来へ」というものが一つのテーマとして私の使命だと考えております。

私一人が頑張っても芸能は繋がっていかず、やはり子どもたちや若い世代に活躍してもらわなければ、伝統芸能の未来が見えなくなってしまいます。

ぼたん・新之助が名前を受け継ぎましたので、いよいよ本格的に「伝承への道」を切り拓いていきたいと、今回この公演を開催させていただくことになりました。

お客様と一緒にこの道を歩んでいけたら嬉しいです。

十三代目市川團十郎白猿

『子守』 清元連中

かつては、地方の貧しい家の少女が子守として年季奉公に出されることがあり、江戸の町には子守の姿がよく見られました。この作品は、そんな江戸末期の町の様子を舞踊化した「風俗舞踊」の一つ。越後から上京した子守が、赤ん坊を背負って豆腐屋へ使いに行った帰り道、鳶に油揚げをさらわれ、それを追って飛び出してくるところから始まります。赤ん坊が眠った後には、一人で人形遊びするなどあどけなさを見せる一方で、恋に憧れる大人びた顔も覗かせますが、全体を通してまだ都会になじまない田舎娘の無邪気さが感じられます。後半では、紅白柄の棒で、両端に房のついた「綾竹」という小道具を用いて、清元の演奏と息を合わせた軽快な踊りを見せます。五節句（※）の変化舞踊から独立して踊られるようになった作品です。（初演：1823年）

※1月7日（人日）、3月3日（上巳）、5月5日（端午）、7月7日（七夕）、9月9日（重陽）

『鳶奴』 長唄囃子連中

七世市川團十郎が一月から十二月の情景を十二変化で踊った「倣三升四季俳優（まねてみますしきのわざおぎ）」のうち四月に当たるのが本作で、当時は「初鯉の戯奴僕（はつがつおのさらわれやっこ）」と呼ばれました。その後、八世市川團十郎が七歳の時にこの部分だけを踊って評判を取ると、子どもの舞踊の手ほどきの曲としても人気を得たと伝わります。奴とは武家に仕える中間。新緑の季節、主人の命で使いに出た帰りでしょうか、鳶に初鯉をさらわれた奴が駆けて来て、賑やかな演奏とともに戦物語風の振りを見せるほか、井戸の鶴瓶棹を手に鳥を捕る振りなどがユーモラスに描かれます。『子守』と併せて、鳶に物をさらわれることがよくあった江戸の日常を描いた作品です。（初演：1814年）

『男伊達花廓』 長唄囃子連中

江戸の庶民の憧憬的であった男伊達。その代表格である御所五郎蔵を主人公にして、侠客としての粋な風情と心意気、恋人の許へ通う男の艶やかな色気を身上とし、若い者を相手にみせる颯爽とした所作ダテが大きな見どころとなる歌舞伎舞踊。歌舞伎の様式美、舞踊の華やかさを一時に堪能できる演目です。

この演目の元となったのは1864年（文久四年）2月、江戸市村座で初演された『曾我綉俠御所染』です。作者は江戸時代を代表する劇作家の河竹黙阿弥。彼は約50年間に時代物90作品、世話物130作品、そして、140曲もの舞踊を生み出しました。

物語は、身分違いの叶わぬ恋に落ちた男女が江戸に追放され、男は五郎蔵として、女は傾城・皐月として廓に身を置き日々を過ごしていました。そんなある日、過去の遺恨から2人は運命の悪戯に翻弄されていくという悲劇のストーリー。この物語のスピノフ作品として生み出された『男伊達花廓』。御所五郎蔵の皐月への気持ちに想いを馳せながらお楽しみください。